

科学研究の成果発表

玉野高1年生7人



科学研究の成果を披露する玉野高校1年生と、発表を聞く同級生たち

超電導体の短時間での合成▽チリメンモンスター(ちりめんじゃこに交じった小さな魚介類)から見た海の環境▽樹脂に埋め込む植物などの標本作り。超電導体を研究した3人は、酸化銅など3種類の物質を焼成し、超電導体を作る実験の内容などを紹介した。

メンバーの野田智也さん(16)は「リニアモーターカーなど超電導を使った技術に興味があった。将来は今回学んだ内容を生かせるような分野に進みたい」と話した。

玉野高は2015年度にプログラム採択校になった。17年度までJSTの補助を受けながら、生徒の学習意欲向上を目指した取り組みを進める。

(正本和臣)

生159人のうち40人が参加。授業の一環としてベーシックコースで研究の基礎を学び、一部の生徒は実験や観察を発展させるアドバンスコースでテーマを掘り下げた。テーマは、電気抵抗がゼロになり送電線などにも利用される高温

玉野高校は8日、科学技術振興機構(JST)の支援事業「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」の2016年度成果発表会を校内で開いた。1年生7人が物理や生物を応用したそれぞれの研究内容について、同級生に説明した。

プログラムには1年

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。